1976年2月25日 第3種郵便物認可（毎週4回月・火・木・金曜発行）2023年12月4日SSKO増刊通巻11511号「おあしす通信」2023年12月号

40 Anniversary Since 1983

SSKO

おあしす通信

編集 キープハート（おあしすの事業を支える市民の会）

2023年 12月号

アートパラ深川 富岡八幡宮に飾られたアート絵馬（本誌6、7ページをご覧ください）

社会福祉法人
おあしす福祉会

〒136-0076 東京都江東区南砂3-4-6
TEL 03-5690-5959
http://www.oasisfukushi.or.jp/

就労継続支援Ｂ型事業所
■**オアシス・プラス** 〒135-0021 東京都江東区白河4-7-2 TEL 03-5646-7811
■**コム・オアシス** 〒136-0076 東京都江東区南砂3-4-6 TEL 03-5690-5959
多機能型（就労継続支援Ｂ型・就労移行支援・就労定着支援）事業所
■**ピアワーク・オアシス** 〒135-0001 東京都江東区毛利1-7-3 TEL 03-5638-1775
地域活動支援センター／指定（特定・一般）相談支援事業所／自立生活援助
■**ウィル・オアシス** 〒135-0002 東京都江東区住吉1-17-20住吉ビル４階 TEL 03-6284-0545
共同生活援助事業（グループホーム）
■**第２クローバーハウス**
おあしす利用者家族の会「杏の会」
公益事業
■住宅確保要配慮者居住支援法人（居住支援法人）
〒136-0073 東京都江東区北砂1-5-20東陽町ダイヤモンドパレス2階204 TEL 070-6435-5374

「力になりたい」想いがつなぐ 子どもたちに木のおもちゃを贈る活動

子どもたちの力になりたい。東日本大震災で被災した子どもたちに想いを寄せた利用者の声をきっかけにスタートした『子どもたちに木のおもちゃを贈る活動』。現在は、公益財団法人がんの子どもを守る会のご協力のもと、がんとたたかう子どもたちとごきょうだいのためにおもちゃをつくってプレゼントしています。

活動を応援してくれる方たちのこと

『子どもたちに木のおもちゃを贈る活動』に協賛し、様々なかたちで活動を支えてくださっている方たちがいます。ここでご紹介したいと思います。

ハンドオルゴールの弦を送り続けてくださる平林さん

東日本大震災が起きてから3年。慣れ親しんだ生活が一変し、保健室を訪れる子どもたちが非常に多いことを知ったわたしたちは、被災地の中学校の保健室へハンドオルゴールをつくってプレゼントすることにしました。しかし、ハンドオルゴールの弦として使用するワイパーの芯（鉄平板）の調達に苦戦。朝日新聞社にお力添えをいただき、全国へワイパーの芯を提供していただけないか協力を呼びかけました。ちいさな記事に目を留めて、9年前から現在もワイパーを集めて送り続けてくださるのが平林さんです。

数か月に1回届く小包。封を開けて、ひと手間であるゴム部分がきれいに切り取られたワイパーの芯を手にとり、「直接お会いしてお礼を伝えたい」という気持ちでいっぱいになりました。お礼のお電話を入れたところ、「処分してしまうワイパーが、おあしすさんのおかげでハンドオルゴールに生まれ変わっている」「こどもたちに喜んでもらえて、わたしとしてもとても嬉しいです」と、さらに心あたたまるお言葉をいただきました。「ハンドオルゴール、震災の年に生まれた子どもが今も喜んで弾いているんですよ」いただいたワイパーを使ったハンドオルゴールを今も大切にしてくださっていることに、胸が熱くなりました。

「ハンドオルゴールをつくってください」子どもたちやごきょうだいからリクエストが届いています。ハンドオルゴールの弦を送り続けてくださる平林さん、材料費として協賛金を寄せてくださった方々、つくり手の想いを込めて、今日も製作に励みます。

こどもたち応援ロボットを置いてくれている永田医院さん

「ぜひうちに置かせてください」今年の５月に木場公園で開催された「まぜこぜパーク@KIBACO」に出店した際、声をかけてくれたのは永田医院の永田院長でした。いろんな形で子どもたちの応援をしたいという利用者の声から誕生した『こどもたち応援ロボット』は、売上のうち500円が公益財団法人がんの子どもを守る会へ寄付となります。販売の機会を探していたわたしたちにとって、永田院長のお声かけは願ってもないお誘いでした。

おかげさまで、売上は好調。こどもたち応援ロボットの製作に携わる利用者さんと一緒に納品に行くと、残りは数個。思わず顔を見合わせて「すごい売れている」「良かったね！」と言葉を交わしました。「自分の手掛けたロボットをバッグにつけている人、いつか街で見かけたらうれしいな」帰りのバスでそう話す利用者さんの表情は、輝いて見えました。

（瀧下　春菜）

永田医院
東京都江東区東陽3-18-4

病気の種類を問わず赤ちゃんからご高齢の方まで対象は幅広く、「家庭医」として地域に根差した診療所です。患者さんの描いた絵や手づくり品が飾られ、とてもあたたかな雰囲気です。

「子どもたちに木のおもちゃを贈る活動」を応援してくださる方を募集しています。詳しくは同封のチラシをご覧ください。

こどもたち応援ロボット

寄付として58,500円集まりました

今年の5月から販売をスタートした『こどもたち応援ロボット』。117個売れました。（11/8時点）

その売上の半額58,500円を「公益財団法人がんの子どもを守る会」へ寄付いたします。

クリスマスプレゼント贈ります

「公益財団法人がんの子どもを守る会」よりご要望をいただき、アフラックペアレンツハウスを利用する子どもたちへ、チャームを100個プレゼントします。

協賛金のご協力をありがとうございます

2022年10月以降、38名の方々に協賛金を寄せていただき、おかげさまで合計22万円集まりました。（11/8時点）ご協力いただき、誠にありがとうございます。子どもたちにプレゼントするおもちゃの材料費、送料に充てさせていただきます。また、右上でもご紹介しましたが、アフラックペアレンツハウス（自宅から離れた病院で治療を受ける子どもとそのご家族が宿泊できる施設）を利用する子どもたちへのクリスマスプレゼントとして使わせていただきます。

がんの子どもを守る会のスタッフさんよりつくり手へのメッセージ

いつもご協力いただいているスタッフさんよりお手紙をいただきました

おあしす福祉会　ピアワーク・オアシス　木工事業部の皆様

虫の音に秋の訪れを感じる季節となりました。皆様、いかがお過ごしでしょうか。

おあしす福祉会ピアワーク・オアシス木工事業部の皆様には、日頃よりたくさんのご支援を賜り心よりお礼申し上げます。

このたびは、クリスマスに子ども達とご家族へ素敵なロボットのチャームをプレゼントしていただけるとのこと、誠にありがとうございます。皆様の温かいお気持ちと一緒に、子ども達とご家族へ大切にお渡しいたします。

また、これまでもたくさんのおもちゃを子ども達へプレゼントしていただき、ありがとうございます。当施設は、小児がんなどの小児難病のために、自宅から離れた病院で治療を受ける子どもとそのご家族が宿泊できる総合施設として運営をしています。自宅と遠く離れた病院の二重生活を送ることは、治療費・交通費・宿泊費などの「経済的負担」、慣れない環境で入院・生活をする「身体的負担」、子どもの病気や治療に対する不安や悩み、自宅から離れ知っている人がいない場所で感じる孤独感、自宅に残したきょうだい児・家族への心配と申し訳なさなどの「精神的負担」が大きく、日々、私たちにできることについて悩み考えながら活動を行っています。

はじめてお話を伺ったとき、「治療中の子ども達とごきょうだいさんへプレゼントを贈ります」と言っていただき、驚きと感謝の気持ちでいっぱいになったことを覚えています。治療中の子ども達のことを想ってくださることも有難く、『手術がんばったねのプレゼントにします』『入院中の子どもの誕生日プレゼントにします』と大変喜んでいただいています。実は、私自身、ハウスできょうだい児のみなさんと過ごす中で、「きょうだい児のことも大切にしたい」「きょうだい児のみなさんに”自分も大切な存在なんだ”とハウスで感じてほしい」「どうしたら”あなたも大切な存在だよ”と伝わるだろう」と悩んでいたので、「ごきょうだいさんにもプレゼントを」の言葉がとても温かく感謝の気持ちでいっぱいになりました。実際に、ごきょうだいさんへプレゼントや応援ロボットのキーホルダーを渡すときには「〇〇ちゃんのために作ってくれたんだよ」と伝えているのですが、みなさん『私にもいいの？』と驚きながら、とても嬉しそうな表情で『ありがとう』と喜んでくれています。そして、その嬉しそうな顔を見たご家族も「いつも我慢ばかりさせていたから」「きょうだいのことまで考えてくださり、ありがとうございます。」と一緒に笑顔で話されている様子に胸がいっぱいになりました。子ども達とご家族へ素敵なプレゼントと笑顔を届けてくださり、本当にありがとうございます。皆様の温かいお気持ちとお心遣いに重ねてお礼申し上げます。

秋の涼風とともに、皆様の毎日が笑顔溢れる日々となりますよう、ご健康とご多幸を心よりお祈りいたします。

2023年9月21日

公益財団法人　がんの子どもを守る会　ハウスマネージャー

清水建設株式会社営業総本部の皆さま ありがとうございます！

この度、社会貢献活動の一環として清水建設株式会社（以下「清水建設」）営業総本部の皆さまから、リサイクルショップの商品となる日用品を当法人に寄付していただきました。清水建設様からは、昨年も物品を寄付していただき今回で二度目となります。

9月26日、豊田室長、山下総務部長、担当者の室田様がコム・オアシス（以下「コム」）を訪問され、当法人への寄付品の贈呈式が行われました。今回ご提供いただいた品々は、16品目153点にもおよび、季節物の衣類やバック、食器など素敵な品物がたくさんありました。利用者・職員一同大変うれしく思っています。

コムでは10月のイベント販売繁忙期に清水建設様をはじめ皆様から頂いた品々を様々な販売場面で活用させていただきました。これらの収益は事業所で働く利用者の工賃となります。

清水建設の皆様、この度はご寄付いただきありがとうございました。これからも引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。　（コム管理者・法人副理事長　藤田　一隆）

豊田室長と寄付を受け取る藤田

いただいた品の一部

おあしすは東京23FCを応援しています！

9月、東京23区をホームタウンとする東京23FC様からチラシの部数を数え、配布先ごとに仕分け・袋詰めをする仕事の依頼を受け、コムで取り組みました。9月5日にはキャプテンの清水光選手が来てくださり、応援幕を用意し拍手で出迎えをしました。チラシを数えながら最近のチームの様子や「応援に行くから頑張って！」など様々な話をしながら、楽しく仕事をすることができました。

9月9日には試合にご招待をいただき、総勢12人の利用者・職員で応援に出かけました。試合は3対1で東京23FCの勝利！清水光選手のゴールも決まり、大盛り上がりでした。「私たちの応援が届いて良かった！」「東京23FCが勝つのをまた見たい！」という声があがりました。スポーツを通して、新たな仕事や観戦の機会をいただけたことは私たちにとって貴重な経験となりました。東京23FCの皆様、この度はありがとうございました。　（コム・オアシス）

【利用者の感想】

■仕事は難しくなかったし、普段通り楽しく取り組めました。また機会があったらぜひこの仕事をしたいです。一緒に仕事をした清水選手からサッカーの話を聞けてテレビで見ているのとは違うんだと思いました。これからも応援しているので、試合に勝って欲しいです。頑張れ東京23FC！　（利用者Aさん）

■途中でチラシの枚数が合わなくてみんなで確認、数え直してコムの団結力を感じました。清水選手がコムに来てくれて一緒に仕事をし、写真を撮ったりサインをもらったこともいい思い出になりました。清水選手のファンです！またみんなで試合を見に行ってたくさん応援したいです。　（利用者Bさん）

新しい挑戦がんばるぞ!!
～おせんべいのお仕事はじまりました～

江東区門前仲町の深川不動尊参道に「其角せんべい」があります。
“日本一堅いせんべい”で有名な地元のおせんべい屋さんです。この度、代表の上田さんからお話をいただき、おせんべいを計量・包装、ラベルを貼る仕事をコム・オアシスで受託することになりました。

これまでコム・オアシスではリサイクルの仕事を中心におこなってきており、初めて食品を扱うため衛生面での配慮や食品を扱う上での注意など戸惑うこともありました。しかし上田さんから「どんなに失敗してもいいからめげずに頑張ってください」と心強いお言葉をいただき、10月末から本格始動しています。

作業については、シールの貼る位置が分かりやすいように台紙をつくったり、おせんべいを袋に入れやすいような自助具を試してみたりと、利用者と試行錯誤の毎日を送っています。

其角せんべい店主　上田さん

おせんべいを計る姿

機械で袋をとじる様子

利用者からは「今日はシール貼りないのー！？」「これって頑張れば任せてもらえる量増えるんですか？」とやる気に溢れた声が上がっています。リサイクルの仕事は得意ではなく、みんなに教えてもらいながら仕事をしている利用者が、せんべいの仕事では周りが驚くほどの速さでこなしている様子も見受けられます。

仕事の選択肢が増えたことで、自分の得意を活かし輝く利用者の新たな姿を見る事ができました。自分たちが関わった商品がお店に並び、多くの人が手にとるということは、単に支援を受ける利用者としてだけでなく、社会活動の一員であることを実感できる機会になります。このような機会をくださり本当にありがとうございました。今後も利用者が自信を取り戻せるような仕事を増やしていきたいと思います。

（山岡　望）

作業に参加した利用者の声

初めは新しい仕事だしできるかなって思ったけどやってみたら楽しかった！もっとやりたい！
でもやってるとおせんべいを食べたくなっちゃうね。　【利用者Aさん】

おせんべいの仕事の話を聞いた時、そういう仕事もここでできるんだと思った。不器用だけどなんとかできた。これからも続けていこうと思う。　【利用者Bさん】

はじめてやるときは不安だったけど、試してみたら感覚が良くて慣れたら面白くなりそうだな思った。ゆっくりでいいのならできそうだし、やりがいがありそう。またやってみたいと思います。　【利用者Cさん】

梱包し終えた商品

アートを通じて「共に生きる」ことをめざす市民芸術祭

～アートパラ深川おしゃべりな芸術祭2023参加レポート～

「アートパラ深川おしゃべりな芸術祭」（以下「アートパラ」）は主に江東区内に在住・在勤の住民がボランティアで障がい者アートを街中に展示し、深川の街全体を美術館にする市民芸術祭です。このイベントは今年で4回目となり、おあしす福祉会も４年連続で様々な協力・参加をしています。今年は深川エリアに加えて、豊洲にもアート展示エリアを広げ、10月14日～22日の9日間開催されました。

【おあしす福祉会の協力・参加】

昨年に引き続き、以下の協力・参加をしました。

①街なかアートの額装・額の清掃作業の受託と物品の保管

②アート絵馬神輿の絵馬の作成（27枚）

③森下のらくろ～ドでのイベント時のボッチャ体験コーナー運営、木のおもちゃ等の販売ブース出店

④ポスター掲示やフライヤー配布等の広報協力

⑤法人職員１名が副実行委員長として協力

おあしす利用者が作成した絵馬

【額装作業はアートを愛でながら働ける機会に】

街の中に展示するアート約550点のうち、おあしすでは約250点の額装作業を、イベント終了後はアートを額から外して、額を綺麗に清掃する作業を昨年に引き続き担いました。ウィル・オアシスを会場として、おあしすの4つの施設から希望者が集まって作業するので、施設を超えた交流の場にもなり、全ての作業に延べ50人以上が取り組みました。今年は初めて関わった方も多く、以下感想を紹介します。

■以前街なかでアートパラの展示されている絵を見て「とても素敵だな」と感じていたので、近くで見ることができたらうれしいなと思って、今回作業に参加しました。初めてだったのでとても緊張しましたが、他の施設の利用者さんとお会いできたのも新鮮でした。こうした作業を提供してもらえて感謝の気持ちでいっぱいです。

細心の注意を払ってアートを扱います

■普段からいろんな作業をしていますが、もっと色々やってみたいと思ったし、工賃が高かったのでやってみました。1年ぶりなのでやりかた覚えてるかな？と思いましたが、なんとかやりきれました。額装以外のお仕事でも何かいい仕事があればやってみたいです。

■体を動かして健康のためと思って参加しました。リズムに乗れて作業できて楽しかったです。いつもお仕事をくださってありがとうございます。

■通い慣れた施設の中で、職員もいる場所での作業だったので安心して取り組めると思ったし、工賃もいただけるのでやってみようと思いました。地域の活動に少しでも協力できてよかったです。お仕事ができてありがたいです。またお願いします。

展示後の額の清掃作業

■就職したいけど仕事がなかなか見つからないため、お金になるのだったら！と思ってチャレンジしました。頭を回すお仕事でとても勉強になりました。アートパラの実行委員のみなさまは大変だと思いました。額装の後の額清掃も頑張ります！

■同じ施設の利用者さんから「やってみない？」って紹介されて初めて参加しました。1日目はうまくできずに戸惑いましたが、職員も手伝ってくれてできるようになったし、他の施設の人ともおしゃべりできて良かったです。私たちはアートパラの実行委員の方がいるおかげで作業ができるので、来年もぜひお仕事してみたいです。ありがとうございました。

■最初は戸惑ったけれど、慣れていくうちに絵を見る余裕も出てきて、どの作品も上手くて感動しました。障害のある人がこういう絵を描いてみんなに見てもらう機会があるというのはすばらしいことだと思った。これからもこういうことを長く続けていってほしいです。また、こういう仕事のお手伝いができればぜひ参加したいと思います。

【絵馬にわたしたちの「希望」と「平和の願い」を込めて・・・】

アートパラのメインコンテンツの一つ「アート絵馬神輿」。富岡八幡宮に飾られるこの絵馬を今年は27枚作成しました。自分が描いた作品が街の中にあるということで、お散歩がてら神社散策に行く機会ができたという声も聞こえました。世界では今年も戦争が起こっていることを受け、絵馬の願いことにも「平和」の文字がありました。アートを通じて、絵馬に平和の願いを込めて、本当に世界から戦争が無くなることを祈る機会ともなりました。

アート絵馬神輿

ボッチャ体験コーナー

【のらくろ～ドがにぎやかなイベント会場に】

森下のらくろ～ド商店街では、今年もアートパラの期間中の日曜日には、ここでさまざまなイベントが実施されました。その一つとしておあしすが、パラリンピック競技でもある「ボッチャ」の体験コーナーを昨年に引き続き実施・運営しました。「障がい者スポーツとは・・・」という切り口で無く、まずは楽しむ！そして、そこで出会うということが、つながりを作っていくきっかけとなるということを今年も実感できる機会となりました。またおあしすの木のおもちゃや被災地応援商品も販売し、来場者におあしすの活動を知っていただく機会ともなりました。ここで購入いただいたことがリピート購入に繋がることもあり、「施設の外で、地域に出向いていく」ことの大切さも感じました。

【障がいがあっても地域と関われる機会をもっと作っていきたい】

アートパラは障がい者アートを通じて「共に生きる」ことを目指している市民芸術祭ですが、アート以外にもおあしすの利用者が、障がい者としてでなく、「街の住人としてできること」がもっと広がっていったら素敵だなと思っています。工賃が支払われる「お仕事」でもいいし、「ボランティア」でも良いと思います。普段自分のいるコミュニティ以外の人たちと関わることは自身の価値観の広がり、新たな気づきを得る機会にもなります。多様な価値観の中で難しいこともたくさんありますが、一人ひとりが互いを尊重し合って、対話をしながら、困難を乗り越えていくその取り組みこそが「共に生きる」実践なのだと思います。来年以降もおあしすの利用者、職員があらたなつながりや気づきを得られる機会が続いていってほしいと思います。

（友田　奈津美）

ご寄付のお願い

おあしすを応援してくださる皆さまのお力が必要です

お互いが　あんしんして　しあわせを手にできる　すてきな町に

おあしす福祉会は障がいの有無に関わらず一人ひとりが互いを認め合い、力を合わせて共に生きる社会（共生社会）の実現を目指し、様々な活動をおこなっています。今後の地域における活動のさらなる充実、利用者へのよりよい支援と施設設備の維持・充実等のためには多くの資金が必要です。

皆さまからのあたたかいご支援をお待ちしております。

おあしす福祉会の活動（一部） ＊他にも多くの事業をおこなっています。

お弁当の製造・販売

木のおもちゃの製造・販売

リサイクルショップの運営

グループホームの運営

子ども達に木のおもちゃを贈る活動（p2,3参照）

居住支援シンポジウム開催（2022年）

ご寄付の手続き

ご自身のスマートフォンやパソコンから申込みできます

当法人ホームページの「寄付をする」のボタンから寄付ページにつながります。または右のQRコードを読込み、案内にそってお手続きください。

クレジットカード、Amazon Pay 、銀行振込でのお支払いが可能です。

＊寄付金控除対象となりますので、所得控除が受けられます

毎月定額でのご支援もぜひご検討ください！

毎月定額でのご支援も可能になりました。

長期的にご支援いただけることは私たちにとって大きな支えになります。

今までの郵便振替によるご寄付も可能です

加入者名　おあしす福祉会　　口座記号　00100　8　番号　82367

通信欄に「寄付」と明記のうえ、お申込みください。

発行人：障害者団体定期刊行物協会　世田谷区祖師谷3-1-17-102
編集人：キープハート／おあしすの事業を支える市民の会　定価100円

おあしす福祉会